

# 心豊かな地域の担い手づくり

市民協働研究会委員 藤田泰雄

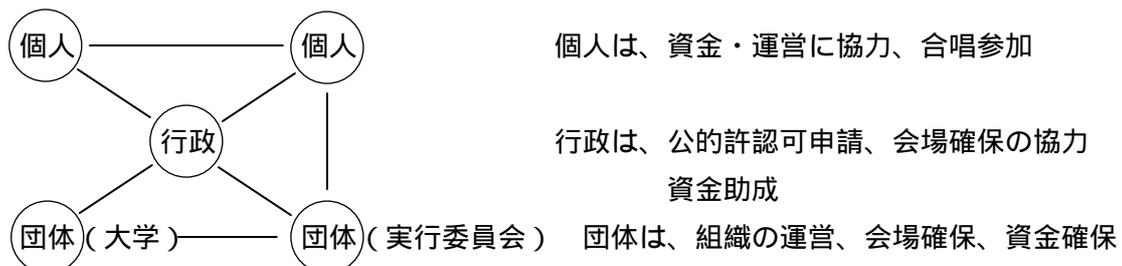
私たちは、公共的な諸問題の解決を行政に任せ、行政はその対応を引き受け、曲がりなりにも解決してきた。しかし、時代の流れ、変化により住民の要求する公共サービス、課題も多様化し、行政の対応に満足できなくなってきた。ところが私たちは、ここ30～40年他人に依存、行政が、誰かがやってくれる、という他人任せ的な風潮で、地域の諸問題の解決、運営への気風と協力していく力を低下させてしまったきらいがある。そして、行政も、これまでの行政サービス・メニューでは対処できないようになってきた。そこで新しく求められる市民サービス・ニーズに応えようとする市民活動が、近年次々と生まれてきた。

これら市民団体は、「地域のことは地域で、自分たちで決める」という自己判断、責任の原則のもとに行政と市民が地域のガバナンスを誕生させ、「新しい自治の姿」、協働による地域社会の安心、安全な持続的まちづくりをしていこうという活動が誕生している。この協働を担うべき人の育成に協働では何ができるのか？・・・

心豊かな感性と、人を大切にする人間を育てるために・・・ややもすると目の前の行政サービスの要求、改善、行政の財政的な諸事情の理解もなく改善を追及するという風潮が強いとき・・・私は自分が現在日常係わっていることに、すぐには目に見えない心豊かな人間の育成、行動、協調性のある人を育てることがこれからの地域社会の安心、安全、持続的な社会の推進の基本と考える。これらを担う人、協働の気持ちの理解と推進に力を貸してくれる人の育成は、やはり、人の心を育てることが第一歩である。文化、芸術、情操活動が大切なことと考える。

私は、ここ数年、春日井市、小牧市、そして近年北名古屋市における文化事業・・・第九演奏会に係わっています。その各市の財政、運営においての活動は、協働の心を生かした人間関係のもとに、ここ10数年、わが町は“第九のまち”と市長自らが誇りを持って語られている。そして人的に協賛協力しバックアップしてくれている大学の存在も協働の推進と、学生と市民のコミュニティの育成に大きな存在となっている。学生、子ども・・・50～80歳の高年齢者との語らいは、生きがいとなりお互いの人間形成の良き場となっているのです。

\* この協働の活動・事業形態は K市第九演奏会においては  
市民協働型



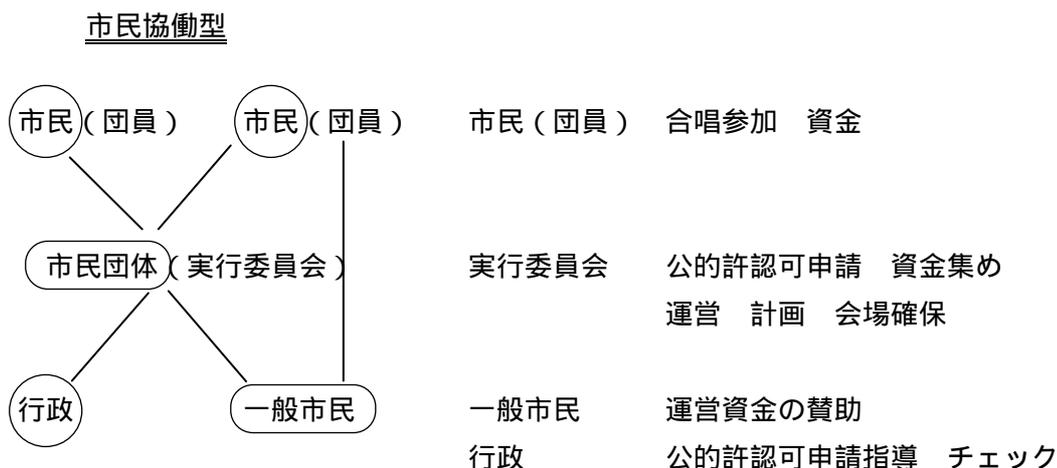
江南市第2回第九演奏会(2006-11-26)

江南市の市制50周年記念事業・第1回第九演奏会(2004-12-4)は、江南市主催にて開催、行政主導型で実施された。

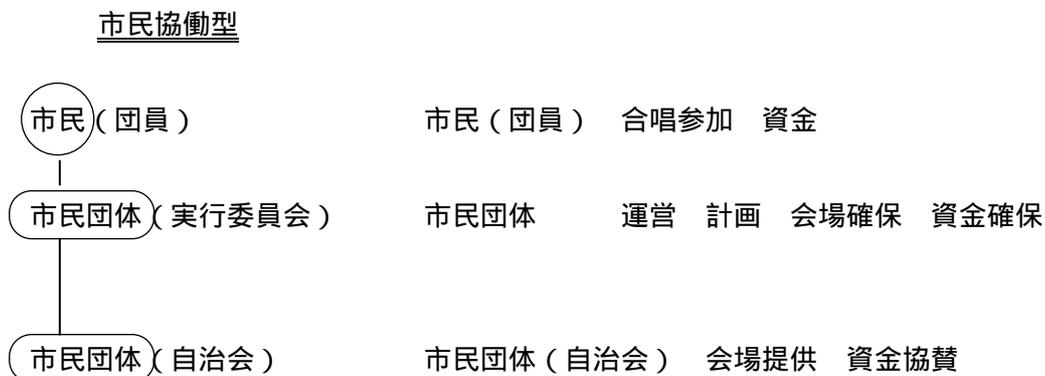
そして翌々年(2006-11-26)第2回を開催。

第2回第九演奏会は、市民による自主公演で開催。第1回に参加された団員の方たちの熱い思いで実行委員会を結成、手作り演奏会で団員、実行委員の熱い思いと汗の結晶、心の絆と生きがい、ふれあい、歓びの共有の公演でした。

\* 江南市第2回第九演奏会の協働・事業形態は



\* 江南市内 某合唱団の事業形態は



上記、協働的3様の活動の実態から、市民協働による事業活動の可能性は明るいものと考えられる。第九演奏会は、市民参加1500人、そしてその家族の協力参加を思うと、3世代の人間の交わり、生きがいと心のふれあいは、これからの協働の担い手育成に大きな力となってくれるものと確信するのです。形の見えない文化、芸術に携わることは、協働事業の活動推進とコミュニティ社会の醸成といった明日への希望につながっていくものと考えます。

協働による、人間、社会、全ての基本となる人づくりに係わろうとするとき、行政との情報の共有、理解を深めなければ前には進まない。そのためには理解、話し合う場(サポートセンター)と、地域に合ったルールが協働活動への今一歩足を踏み出そうとするときの大切な基本事項と考えられる。